

Asahi**KASEI**

グループ事業のご報告

第124期上半期決算
2014.4.1～2014.9.30

証券コード：3407

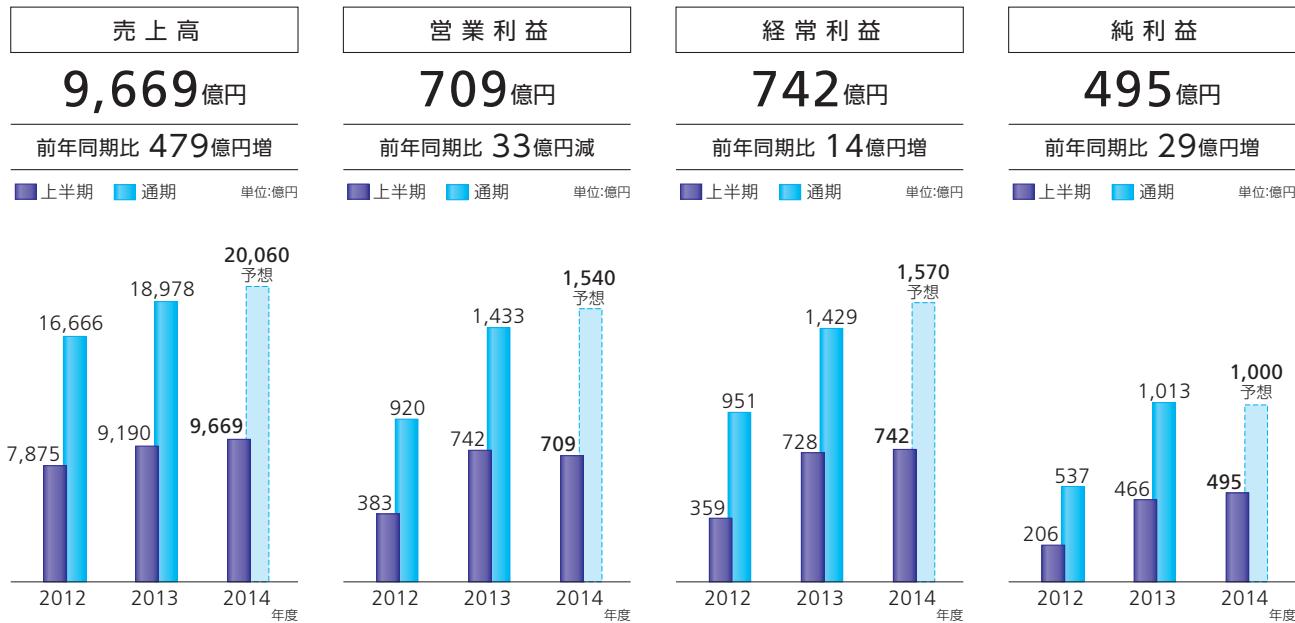
旭化成株式会社

売上高、経常利益、四半期純利益で過去最高を更新

当社グループの当上半期(2014年4月～9月)における連結業績は、住宅事業において引渡戸数が増加した一方で、医薬事業において薬価改定の影響を受けたことなどから、売上高は9,669億円で前年同期比479億円(5.2%)の増収となり、営業利益は709億円で前年同期比33億円(4.5%)の減益、経常利益は742億円で前年

同期比14億円(1.9%)の増益、四半期純利益は495億円で前年同期比29億円(6.3%)の増益となりました。

なお、当上半期の中間配当につきましては、業績及び配当に関する方針を踏まえ、前中間期比2円増配の1株につき9円とさせていただきます。



※2014年度通期の予想値は、2014年11月5日時点のものです。

※「エレクトロニクス」セグメントにおいて、2013年度第3四半期より連結財務諸表に与える影響が重要となった子会社1社を連結子会社としたことに伴い、2013年度上期の金額を遡及修正しています。



取締役会長

代表取締役社長

伊藤 一郎

浅野 敏雄

「グループ事業のご報告」をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

2014年度上半期における世界経済は、米国で回復傾向が続き、欧州でも持ち直しの動きがありましたが、中国をはじめとする新興国では成長の鈍化が見られました。一方、日本経済については、雇用情勢が改善するなど緩やかな回復基調が続いているものの、消費税増税の影響などにより、個人消費に弱い動きが見られました。

このような状況のなか、当社の「ケミカル・繊維」セグメントでは、円安の効果を受けたものの、原燃料価格が高騰したことにより、また、「住宅・建材」セグメントでは、集合住宅等の引き渡しが増えたものの、一部の製品で消費税増税の影響を受けたことなどから前年同期比で両セグメントともに増収・減益となりました。また、「エレクトロニクス」セグメントでは各製品において販売量が伸びましたが、販売価格下落の影響を受け、減収・減益となりました。「ヘルスケア」セグメントでは、薬価改定により既存医薬品の販売価格が下落するなどしましたが、クリティカルケア事業が順調に推移し、増収・増益となりました。その結果、当社の2014年度上半期の連結業績は、前年同期比で営業利益は減益となりましたが、売上高は増収、経常利益、四半期純利益では増益となり、過去最高を更新しました。

当社グループでは2011年度から中期経営計画「For Tomorrow 2015」を実行しています。このなかで「健康で快適な生活」「環境との共生」の実現を通して社会に新たな価値を提供していくことをグループビジョンに掲げ、「グローバルリーディング事業の展開」と「環境・エネルギー」「住・暮らし」「ヘルスケア」の3分野において「新たな社会価値の創出」を目指しています。

当社グループはこれからも「イノベーション」を生み出すことで、世界の人のびとの「いのち」と「暮らし」に貢献してまいります。皆さまの変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



事業活動の状況をお知らせします。

当期より、ガバナンス体制を変更したことに伴い、報告セグメントを従来の「ケミカル」「繊維」「住宅」「建材」「エレクトロニクス」「医薬・医療」「クリティカルケア」の7報告セグメント及び「その他」の区分から、「ケミカル・繊維」

ケミカル・繊維 セグメント

49.4%

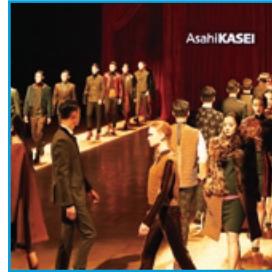


事業会社

【旭化成ケミカルズ株式会社】

社長：小林 友二

主要製品 石油化学系（アクリロニトリル、スチレンモノマー、アジピン酸、ポリエチレンなど）、高機能ポリマー系（エンジニアリング樹脂、合成ゴムなど）、高付加価値系（中空糸ろ過膜「マイクロザ™」、イオン交換膜、医薬・食品用添加剤「セオラス™」、サララップ™）など



事業会社

【旭化成せんい株式会社】

社長：高梨 利雄

主要製品 再生セルロース繊維「ベンベルグ™」、ポリウレタン弾性繊維「ロイカ™」、スパンボンド不織布、ナイロン66繊維「レオナ™」など

売上高 **4,775億円** (前年同期比 4.5%増)

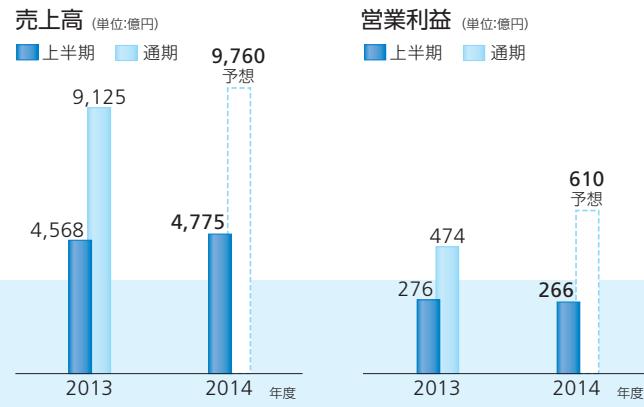
営業利益 **266億円** (前年同期比 3.6%減)

売上高は4,775億円で前年同期比207億円(4.5%)の増収となり、営業利益は266億円で前年同期比10億円(3.6%)の減益となりました。

ケミカル事業の石油化学系事業では、スチレンモノマーの市況が悪化しましたが、国内石油化学事業の基盤強化による効果に加え、アクリロニトリルの市況が改善しました。高機能ポリマー系事業では、エンジニアリング樹脂及び省燃費型高性能タイヤ向け合成ゴムの販売が堅調に推移しましたが、合成ゴムのその他の用途で海外市況悪化の影響を受けました。高付加価値系事業では、イオン交換膜の販売が堅調に推移しましたが、「サララップ™」を中心とした消費財製品で広告宣伝費の増加に加え、消費税増税の影響を受けました。

繊維事業では、スパンボンド不織布やナイロン66繊維「レオナ™」でナフサなどの原燃料価格高騰の影響を受けた

ことに加え、再生セルロース繊維「ベンベルグ™」において新製造設備の償却費が増加しましたが、フェイスマスク向けなどの長繊維セルロース不織布「ベンリーゼ™」やポリウレタン弾性繊維「ロイカ™」の販売が堅調に推移しました。



「住宅・建材」「エレクトロニクス」「ヘルスケア」の4報告セグメント及び「その他」の区分に変更しています。それに伴い、前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しています。

住宅・建材 セグメント

29.2%



事業会社

【旭化成ホームズ株式会社】

社長：池田 英輔

主要製品・事業 戸建住宅「ヘーベルハウス™」、集合住宅「ヘーベルメゾン™」、分譲マンション「アトラス™」、「ヘーベルメゾン™」の賃貸管理、リフォーム事業、住宅ローン事業など



事業会社

【旭化成建材株式会社】

社長：前田 富弘

主要製品 軽量気泡コンクリート(ALC)「ヘーベル™」、高性能フェノールフォーム断熱材「ネオマ™フォーム」・「ジュピール™」、パイル、鉄骨構造用資材など

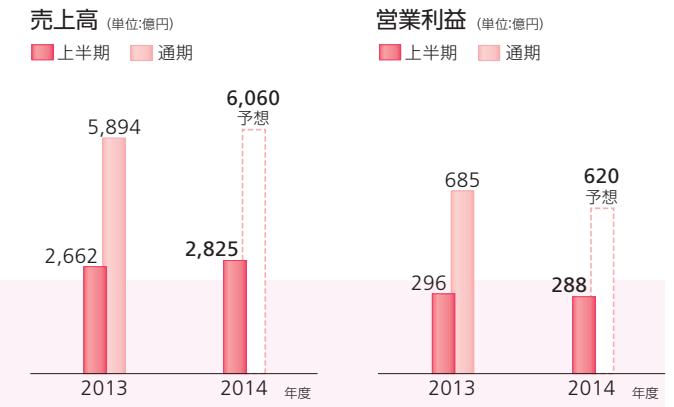
売上高 **2,825億円** (前年同期比 6.1%増)

営業利益 **288億円** (前年同期比 2.8%減)

売上高は2,825億円で前年同期比163億円(6.1%)の増収となり、営業利益は288億円で前年同期比8億円(2.8%)の減益となりました。

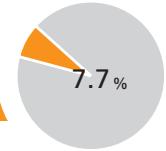
住宅事業の建築請負部門では、前年度の好調な受注実績を背景に、集合住宅「ヘーベルメゾン™」を中心に引渡戸数が増加しましたが、施工費や広告宣伝費が増加しました。また、リフォーム部門で消費税増税前の駆け込み需要の反動により受注が減少しましたが、大型分譲マンションの引き渡しがあったことから、不動産部門が順調に推移しました。

建材事業では、軽量気泡コンクリート(ALC)「ヘーベル™」が順調に販売量を伸ばしましたが、高性能フェノールフォーム断熱材「ネオマ™フォーム」において販売量が消費税増税の影響により減少したことに加え、新製造設備の償却費が増加しました。



事業活動の状況をお知らせします。

エレクトロニクス セグメント



事業会社

【旭化成エレクトロニクス株式会社】

社長：城戸 信介

▶ **主要製品** ミクスドシグナルLSI、ホール素子など

【旭化成イーマテリアルズ株式会社】

社長：高山 茂樹

▶ **主要製品** リチウムイオン二次電池用セパレータ「ハイポア™」、感光性ドライフィルム「サンフォート™」、フォトマスク防塵保護膜ペリクルなど

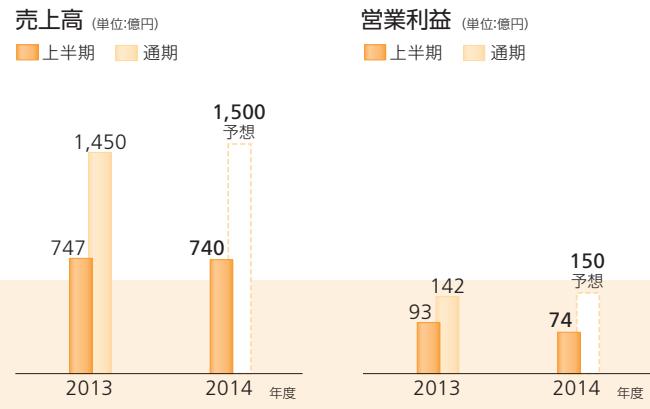
売上高 **740**億円 (前年同期比 0.9%減)

営業利益 **74**億円 (前年同期比 20.4%減)

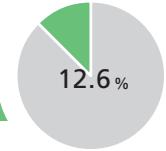
売上高は740億円で前年同期比7億円(0.9%)の減収となり、営業利益は74億円で前年同期比19億円(20.4%)の減益となりました。

電子部品系事業では、水晶発振器用ICの販売量減少に加え、前年度の館山事業所閉鎖に伴う在庫積み増しの反動などにより売上原価が悪化しました。

電子材料系事業では、各製品における高機能領域の販売が順調に推移しましたが、リチウムイオン二次電池用セパレータ「ハイポア™」を中心に販売価格が下落しました。



ヘルスケア セグメント



事業会社

【旭化成ファーマ株式会社】

社長：堀 一良

▶ **主要製品** 医療用医薬品(骨粗鬆症治療剤「テリボン™」、血液凝固阻止剤「リコモジュリン™」、排尿障害改善剤「フリバス™」)など

【旭化成メディカル株式会社】

社長：柴田 豊

▶ **主要製品** ポリスルホン膜人工腎臓「APS™」、アフェレシス(血液浄化療法)関連機器、ウイルス除去フィルター「プラノバ™」など

【ZOLL Medical Corporation】

CEO: Richard A. Packer

▶ **主要製品** 医療機関向け除細動器、着体型自動除細動器「LifeVest™」、自動体外式除細動器「ZOLL AED Plus™」、体温管理システム「サーモガードシステム™」など

売上高 **1,214**億円 (前年同期比 7.1%増)

営業利益 **150**億円 (前年同期比 4.5%増)

売上高は1,214億円で前年同期比81億円(7.1%)の増収となり、営業利益は150億円で前年同期比6億円(4.5%)の増益となりました。

医薬事業では、既存医薬品において薬価改定による価格下落の影響を受けたことに加え、消費税増税前の駆け込み需要の反動により、骨粗鬆症治療剤「テリボン™」や血液凝固阻止剤「リコモジュリン™」の販売量が減少しました。

医療事業では、透析関連製品やアフェレシス(血液浄化療法)関連製品の販売が堅調に推移し、ウイルス除去フィルター「プラノバ™」の販売量も増加しました。

クリティカルケア事業では、営業活動強化に伴う販管費が増加しましたが、着体型自動除細動器「LifeVest™」の業

績が引き続き順調に拡大し、その他の除細動器などの販売も堅調に推移しました。



その他

売上高は116億円で前年同期比36億円(44.8%)の増収となり、営業利益は7億円で前年同期比1億円(11.5%)の減益となりました。

各セグメントの取り組みをご紹介します。

ケミカル・繊維 セグメント

●米国で樹脂コンパウンド第二工場起工式を開催

旭化成ケミカルズは、本年9月、米国の子会社である旭化成プラスチックノースアメリカにおいて、米国アラバマ州での樹脂コンパウンド第二工場の起工式を開催しました。米国南部を中心とした需要の拡大と顧客のニーズに応えた供給体制の拡充を図るためのもので、今後も高品質、高性能の製品を提供し、市場ニーズに合わせた製品開発に取り組むとともに、さらなる供給体制の拡大も検討していきます。



起工式でアラバマ州より印章を授与される
小林友二旭化成ケミカルズ社長（右）

●タイにおけるスパンボンド不織布製造設備の増設を決定

旭化成せんいは、本年5月、タイにおけるスパンボンド不織布の製造・販売会社である旭化成スパンボンド（タイ）の設備増設を決定しました。アジア各国での紙おむつ市場の急拡大に対応するためのもので、当社独自技術による高品質なスパンボンド不織布製造設備を増設します。今後も安定供給体制を強化し、顧客ニーズにお応えするとともに日系紙おむつメーカーの海外進出を強力にサポートしていきます。



住宅・建材 セグメント

●重量鉄骨3階建て住宅「ヘーベルハウス FREX™」に オイルダンパー制震装置「サイレス™」を標準採用

旭化成ホームズは、本年5月、重量鉄骨システムラーメン構造の3階建て住宅「ヘーベルハウス FREX™」で、震動の吸収性に優れたオイルダンパーを組み込んだ制震装置「サイレス™」を標準採用としました。地震時にオイルダンパーが作動して細やかに揺れを低減することで、住まい手の命や財産を守ることはもちろん、繰り返し発生する余震による建物の損傷を抑えます。



●断熱リフォーム専用ボード 「ネオマ™断熱ボード」を発売

旭化成建材は、本年6月、住みながら生活ゾーンを効率よく断熱リフォームする「居ながらゾーン断熱」を可能にする「ネオマ™断熱ボード」を発売しました。「ネオマ™フォーム」の高い断熱性能を活かし、部屋単位で壁の内側から改修が可能な「剥がさない」工事を実現できるため、仮住まいや引越しの必要がなく、より簡単に断熱リフォームすることが可能になります。



断熱リフォーム専用ボード「ネオマ™断熱ボード」施工の様子

エレクトロニクス セグメント

●「電子コンパスとオフセット自動調整方法の開発」が 「平成26年度文部科学大臣表彰 科学技術賞（開発部門）」を受賞

本年4月、山下昌哉旭化成グループフェローの「電子コンパスとオフセット自動調整方法の開発」が「平成26年度文部科学大臣表彰 科学技術賞（開発部門）」を受賞しました。電子コンパスは、携帯機器使用時に、微弱な地磁気と、スピーカーなど周辺の磁性部品から漏れる巨大な磁場とを選別して、方位角を安定に測定し続けます。スマートフォン市場の拡大に大きく貢献したことが評価され、受賞に至りました。

受賞した山下旭化成グループフェロー



ヘルスケア セグメント

●トロンボモジュリン製剤 「リコモジュリン®点滴静注用 12800」 の原薬工場新棟建設を決定

旭化成ファーマは、本年5月、旭化成富士支社内に「汎用性血管内血液凝固症」を効能・効果とするトロンボモジュリン製剤「リコモジュリン®点滴静注用 12800」（一般名：トロンボモジュリン アルファ（遺伝子組み換え））の原薬を製造する新棟の建設を決定しました。現在は同支社内の富士医薬工場でも製造していますが、新棟の建設によりさらなる安定供給を図ります。



●HDF（血液透析濾過）療法分野 での業務提携を発表

旭化成メディカルは、本年4月、株式会社ジェイ・エム・エスとHDF療法分野での業務提携につき基本合意しました。ジェイ・エム・エスのQsコントロール機能が搭載された新型多用途透析装置の販売開始に合わせ、同装置と旭化成メディカルのHDFフィルターとの相互販売の業務提携を行うほか、その他のシナジーの具体化に向けて今後検討していきます。



旭化成メディカルのHDFフィルター

●日本での着用型自動除細動器 「LifeVest™」のサービス提供を開始

旭化成ゾールメディカルは、本年4月、日本国内において着用型自動除細動器「LifeVest™」の提供を開始しました。「LifeVest™」は、心臓の状態を連続して監視し、心臓突然死につながる不整脈が起こった際に自動で除細動治療を行う、日本で初めての着用型の自動除細動器です。除細動治療に新たな選択肢を増やし、より多くの患者さんのいのちとくらしに貢献することを目指します。

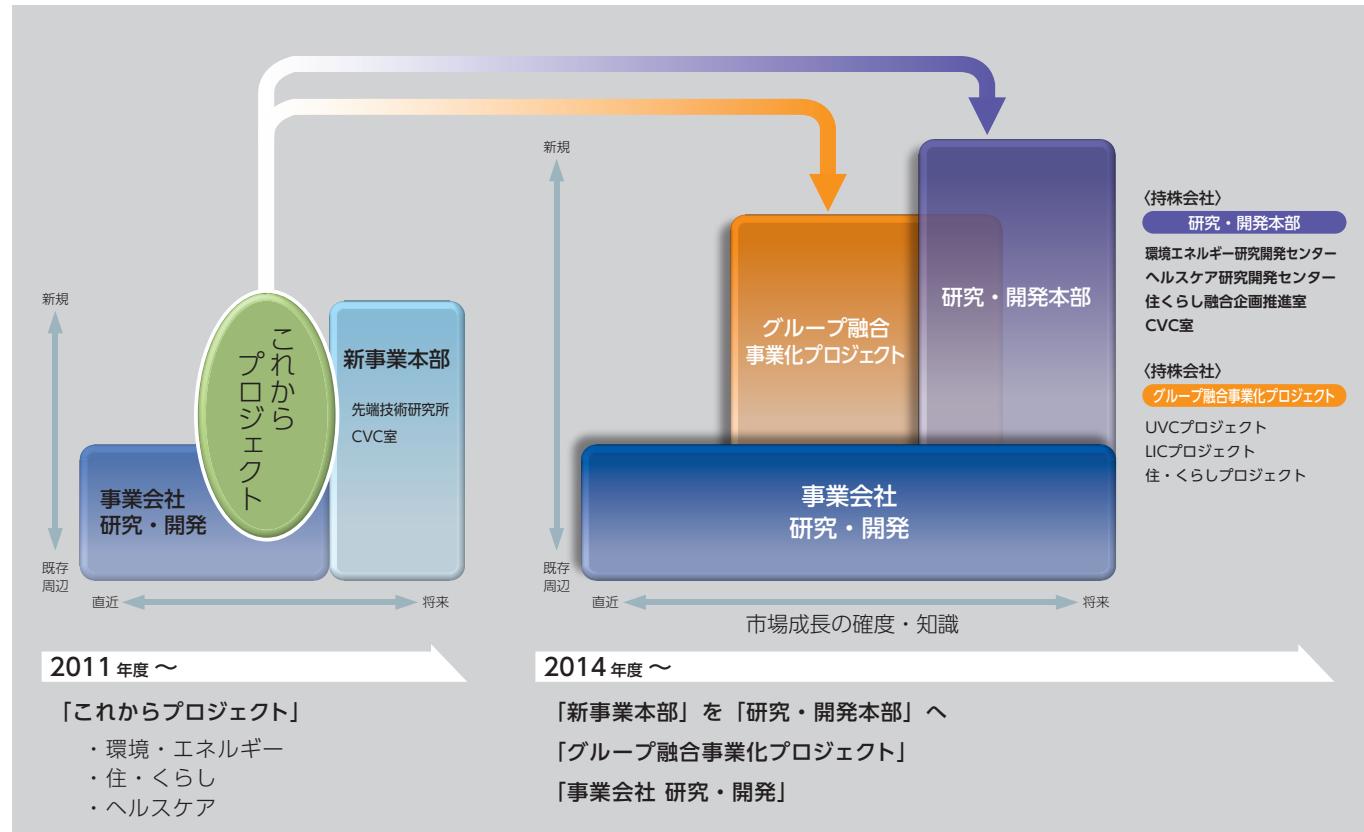


研究開発組織が新しくなりました！

旭化成では、中期経営計画で「環境・エネルギー」「住・くらし」「ヘルスケア」の分野に「これからプロジェクト」を設置し、グループ横断的に新事業創出を推進してきました。

2014年度からは「グループ融合事業化プロジェクト」に発展させるとともに、研究・開発本部に設置した「環境エネルギー研究開発センター」「ヘルスケア研究開発センター」「住くらし融合企画推進室」において、グループのシナジーを活かした中長期的な研究開発を推進していきます。さらにCVC (Corporate Venture Capital) 室では新たな事業の種となる新規技術の発掘、獲得及び育成を進めていきます。

▶ 研究開発体制の再編



グループ融合でこれから創出していく「新しい社会価値」についてご紹介します。

「環境・エネルギー」分野

深紫外発光ダイオード (UVC-LED) の事業化推進 (UVCプロジェクト)

水銀を使わず環境にやさしい、優れた殺菌作用を持つ深紫外線発光デバイスです。分析・解析用途、食品用途、医療用途への幅広い応用も期待されています。



リチウムイオンキャパシタ事業の開発 (LICプロジェクト)

省エネルギー・ソリューションを提供する、急速充放電が可能な蓄電デバイスです。電源用途、社会インフラ用途、車載用途での展開を目指しています。



「住・くらし」分野

住・くらしプロジェクト、住くらし融合企画推進室

これからの時代の新たな住まい方の探索や、シニア住宅、台湾における海外事業の検討も行っています。また、実証棟「HH2015」を用いて、社内外技術の融合による新事業の実証を行っています。



実証棟「HH2015」

「ヘルスケア」領域

細胞再生医療

細胞培養に関連する周辺機器・素材や細胞再生医療製品などの研究開発を行っています。

医療 IT

音声認識技術を活用した電子聴診器や解析サービスの研究開発などを行っています。

診断薬

抗原抗体反応を利用した微生物の高感度同定技術の開発を進めています。

マイコプラズマ抗原キット

リボテスト
マイコプラズマ



旭化成ファーマと連携して開発したマイコプラズマ肺炎の診断キット

P O I N T

当上半期末の総資産は、現金及び預金が415億円減少したものの、「ケミカル・繊維」セグメントを中心としたたな卸資産が230億円、保有株式の時価が上昇したことなどにより投資有価証券が141億円、有形固定資産が110億円、受取手形及び売掛金が100億円、無形固定資産が72億円増加したことなどから、前連結会計年度末(以下「前期末」)に比べて275億円増加し、1兆9,426億円となりました。

有利子負債は、コマーシャル・ペーパーが80億円増加したものの、長期借入金143億円、短期借入金132億円減少したことなどから、前期末に比べて205億円減少し、2,834億円となりました。

純資産は、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴い利益剰余金が157億円減少したことや、配当金を140億円支払ったものの、四半期純利益を495億円計上したことや、為替換算調整勘定が222億円、その他有価証券評価差額金が97億円増加したことなどから、前期末に比べて542億円増加し、9,800億円となりました。

この結果、自己資本比率は49.8%となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、法人税等の支払額564億円、たな卸資産の増加197億円などによる支出があったものの、税金等調整前四半期純利益741億円、減価償却費406億円などの収入があったことから、430億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出439億円、無形固定資産の取得による支出58億円などがあったことから、478億円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の減少307億円、配当金の支払額140億円などがあったことから、400億円の支出となりました。

これらに加え、現金及び現金同等物の為替換算による増加額19億円などがあったことから、**現金及び現金同等物の四半期末残高**は、前期末より428億円減少し、1,004億円となりました。

■ 連結貸借対照表 (要旨)

(単位:億円)

科目	当上半期 2014年9月30日現在	前期 2014年3月31日現在	前上半期 2013年9月30日現在
資産の部			
流動資産	8,848	8,904	8,464
固定資産	10,578	10,247	10,059
有形固定資産	4,915	4,805	4,733
無形固定資産	2,656	2,584	2,564
投資その他の資産	3,007	2,857	2,762
資産合計	19,426	19,151	18,523
負債の部			
流動負債	5,462	5,768	5,972
固定負債	4,164	4,125	3,704
負債合計	9,626	9,893	9,676
純資産の部			
株主資本	8,356	8,156	7,707
資本金	1,034	1,034	1,034
資本剰余金	794	794	794
利益剰余金	6,557	6,354	5,904
自己株式	△ 29	△ 26	△ 25
その他の包括利益累計額	1,309	971	1,013
少数株主持分	134	131	127
純資産合計	9,800	9,258	8,847
負債純資産合計	19,426	19,151	18,523

■ 連結損益計算書 (要旨)

(単位:億円)

科目	当上半期 2014年4月1日～ 2014年9月30日	前上半期 2013年4月1日～ 2013年9月30日	前期 2013年4月1日～ 2014年3月31日
売上高	9,669	9,190	18,978
売上原価	7,070	6,658	13,857
売上総利益	2,599	2,532	5,121
販売費及び一般管理費	1,890	1,790	3,687
営業利益	709	742	1,433
営業外収益	74	50	106
営業外費用	42	64	111
経常利益	742	728	1,429
特別利益	25	18	555
特別損失	26	34	345
税金等調整前純利益	741	712	1,639
法人税等	242	241	618
少数株主損益調整前純利益	500	471	1,021
少数株主損益	損 4	損 5	損 8
純利益	495	466	1,013

■ 連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位:億円)

科目	当上半期 2014年4月1日～ 2014年9月30日	前期 2013年4月1日～ 2014年3月31日	前上半期 2013年4月1日～ 2013年9月30日
営業活動による キャッシュ・フロー	430	2,442	872
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 478	△ 1,038	△ 494
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 400	△ 1,051	△ 347
現金及び現金同等物に 係る換算差額	19	33	17
現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少)	△ 429	386	48
現金及び現金同等物の 期首残高	1,431	1,040	1,040
連結範囲の変更に伴う現金及び 現金同等物の増減額 (△は減少)	1	5	5
現金及び現金同等物の 四半期末 (期末) 残高	1,004	1,431	1,093

ホームページ
のご紹介

旭化成 決算 説明会

検索

最新の決算説明会の内容を、音声及びスライド資料にてご確認いただけます。



■ 会社概要

商号	旭化成株式会社 (Asahi Kasei Corporation)
設立年月日	1931年5月21日
資本金	103,388,521,767円
主要事業	ケミカル・繊維、住宅・建材、エレクトロニクス、ヘルスケア等の事業を行う会社の株式保有及びその事業活動の管理等
本社	〒101-8101 東京都千代田区神田神保町一丁目105番地 神保町三井ビルディング 電話 (03) 3296-3000
連結対象子会社	132社
持分法適用会社	38社
URL	http://www.asahi-kasei.co.jp

※2014年10月1日付にて上記の住所に登記上の本店所在地を変更し、本社も東京本社に一本化しました。

■ 役員

取締役会長	伊藤 一郎	常勤監査役	川崎 俊之
代表取締役社長 兼 社長執行役員	浅野 敏雄	常勤監査役	永原 肇
代表取締役 兼 副社長執行役員	平居 正仁	社外監査役	手塚 一男
代表取締役 兼 専務執行役員	小林 友二	社外監査役	小林 公司
代表取締役 兼 専務執行役員	小堀 秀毅	社外監査役	真壁 昭夫
取締役 兼 常務執行役員	小林 宏史		
社外取締役	市野 紀生		
社外取締役	白石 真澄		
社外取締役	安達 健祐		

■ 株式の状況

発行可能株式総数	4,000,000,000 株
発行済株式の総数	1,402,616,332 株
株主数	90,570 名

■ 大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	75,395	5.40
日本生命保険相互会社	73,000	5.23
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	53,784	3.85
旭化成グループ従業員持株会	43,236	3.09
株式会社三井住友銀行	35,404	2.53
株式会社みずほ銀行	31,200	2.23
東京海上日動火災保険株式会社	20,215	1.45
住友生命保険相互会社	19,517	1.40
全国共済農業協同組合連合会	19,200	1.37
明治安田生命保険相互会社	18,416	1.32

(注) 持株比率については、自己株式を除いて算出しています。

■ 所有者別株式分布状況



■ 所有株数別株式分布状況



「旭化成レポート2014」
を発行しました

今年度より「アニュアルレポート」と「CSRレポート」を1冊に統合した「旭化成レポート」を発行しました。経営戦略、事業活動と非財務情報をまとめることで、ステークホルダーの皆さまに旭化成グループの全体像をご理解いただければと考えております。



主な内容

- ▶ 特集1「連鎖する多角化と社会価値創出の歴史」
- ▶ 財務・非財務情報ハイライト
- ▶ セグメント概況
- ▶ 研究開発
- ▶ 特集2「『融合』をキーワードに、成果を生み出す」
～女性研究者座談会～
- ▶ CSR〈社員の個の尊重〉
〈レスポンスブル・ケアの推進〉
〈社会との共生〉
〈コンプライアンスの尊重〉
- ▶ コーポレート・ガバナンス
- ▶ 財務セクション／連結財務諸表

冊子をご希望の方は、下記URLの「お申し込みフォーム」よりお申し込みください。

旭化成
ホームページ

<http://www.asahi-kasei.co.jp/asahi/jp/ir/library/annual/>

株式メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月下旬開催
基準日 定時株主総会・期末配当金 毎年3月31日
中間配当金 毎年9月30日
そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

株主名簿管理人 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
公告の方法 電子公告
<http://www.asahi-kasei.co.jp/asahi/jp/koukoku/index.html>

株式に関するお手続きについて

各お手続きのお問い合わせ先は以下のとおりとなっております。

お手続きの内容	証券会社の口座をご利用の株式についてのお問い合わせ先	特別口座※1)に記録された株式についてのお問い合わせ先
<ul style="list-style-type: none">住所、姓名などの変更配当金の受領方法の変更単元未満株式の買取、買増請求	お取引証券会社	特別口座の口座管理機関 〔三井住友信託銀行株式会社 (証券代行部)*〕
<ul style="list-style-type: none">特別口座から証券口座への振替請求		
<ul style="list-style-type: none">未払配当金の支払請求※2)その他のお問い合わせ	株主名簿管理人 (三井住友信託銀行株式会社 (証券代行部)*)	

※1) 株券電子化以前に株式会社証券保管振替機構に預託されていなかった株式は、法令に従い、当社が、名義人名で三井住友信託銀行株式会社に開設した「特別口座」に記録されています。「特別口座」に記録された株式のご売却には、証券会社の口座への振替手続きが必要です。

※2) 配当金は、支払開始の日から満3年を経過しますと定款の規定によりお支払いできなくなりますので、お早めにお受け取りください。

*【三井住友信託銀行株式会社 (証券代行部)】

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
電話照会先 ☎0120-782-031 (平日9:00~17:00)
ホームページURL <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

【配当金受領方法について】

お受け取りには、下記の4つの方法がございます。安全、確実にお受け取りいただくために、①~③の口座振込の利用をお奨めいたします。(詳細は上記の各お問い合わせ先にご確認ください。)

- ① 登録配当金受領口座方式**
全てのご所有銘柄の配当金が、ご指定いただいた一つの金融機関預金口座に振込みとなります。
- ② 株式数比例配分方式**
ご利用の各証券口座に振込みとなります。
(注. 当方式を採用している証券口座のみをご利用の株主様に限ります。)
- ③ 個別銘柄指定方式**
ご所有の銘柄ごとにご指定いただいた金融機関預金口座への振込みとなります。
- ④ 配当金領収証方式**
ゆうちょ銀行・郵便局の窓口で現金をお受け取りいただけます。

【単元未満株式(1~999株)の買取・買増について】

ご所有の株式の買取りの請求、または買増しの請求をしていただくことができます。(詳細は上記の各お問い合わせ先にご確認ください。)
なお、単元未満株式が特別口座で管理されている場合、手数料は無料です。(証券会社で管理されている場合の手数料は、お取引証券会社にお問い合わせください。)

- 買取請求**
ご所有の単元未満株式を、市場価格で買取る請求をしていただく制度です。
(⇒ご所有の単元未満株式のご売却となります。)
- 買増請求**
ご所有の単元未満株式が単元株(1,000株)になるために必要な株式数を、市場価格で買増す請求をしていただく制度です。
(⇒買増し後は、単元株式をご所有いただくこととなります。)

旭化成株式会社

〒101-8101 東京都千代田区神田神保町一丁目105番地
<http://www.asahi-kasei.co.jp>

